

港湾振興便り



2015. 2
第94号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ —コメの輸出に大きな可能性—
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

●北海道「北極海航路」調査研究会の開催について
(北海道総合政策部交通政策局物流港湾室)

●第7回みなとオアシス会議を開催
(中部地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

●Google マップ のストリートビューで瀬戸内の魅力発信!
(瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会事務局)

3 お知らせ

*:

1 ポートエッセイ —コメの輸出に大きな可能性—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

安倍政権の規制改革で農業分野、とりわけ農協改革が1つの焦点になっている。昨秋は主食用米がだぶつき、米価の大幅下落につながった。コメへの依存度が高い東北・北陸では米価下落が農村部に大きな影を落としている。

新潟市では何とか活路を見出そうと、6次産業化を進める「ニューフードバレー構想」を3年ほど前から推進し、それもあって農業分野で国家戦略特区の指定を受けることができたと受け止めている。

農業戦略特区については規制緩和を活用したローソンなどの企業参入や農家レストランなどの事業が年明けから始まっている。それ以外の特區効果も表れてきてパナソニックなどの大手企業や東京生薬協会が技術レベルの高い植物工場を建設・稼働してくれている。ゲノム解析ではトップレベルの技術を持つ東大発のベンチャー企業が電通と組んで新潟の農産物のうま味をゲノムで解析し、新品種開発などに結び付けるプロジェクトも始まった。

そんな中でコメに関する新しい動きも目立ち始めた。コメの輸出が大きく伸びてきたのだ。これまでも新潟市の意欲ある農家が台湾などに果敢に市場開拓し、コメ輸出は新潟県がトップ、秋田県がそれに続いている。新潟市の数字は、府県の順位と比較すると秋田県に次ぐ。

そのコメ輸出がこの2、3年、倍々ゲームで伸びてきた。推進力となっているのが「新潟クボタ」の取り組みだ。香港、シンガポール、そしてモンゴルに精米工場を建設、摺り立ての新鮮でおいしいコメを地元スーパーなどに並べ、「売れたらまた摺る」方式を開発してくれた。これが海外で人気を呼んでいる。

新潟県のコメ輸出は今年度、2000トン近くまで伸びたようだ。クボタ系列だけでも近く3000トンを目指している。新潟県の飼料用米生産が4000トン台だから、多様なコメづくりの立派な柱に育ちそうだ。

今年、日中の関係が改善して日本の農産物輸出への門戸が大きく開けたら日本のコメ輸出は1万トン単位で増加するだろう。こんな新しい取り組みを活かしながら、港を農産物の輸出入基地とする取り組みを各地で強化していきたい。

*:

2 トピック

*:

●北海道「北極海航路」調査研究会の開催について

(北海道総合政策部交通政策局物流港湾室)

平成27年2月4日(水)、道は行政機関・研究機関・港湾関係者で構成する『北海道「北極海航路」調査研究会』を札幌市で開催しました。

今回の研究会では、国土交通省の担当者や民間の研究者より、北極海航路に関する最新の情報についての講演があり、2014年シーズンの利用状況が、原油価格の下落や中国経済の減速、ロシアへの経済制裁などの要因により、ここ数年の急激な増加傾向から一転し、低調に推移したことなどが紹介されました。

続く話題提供では、「外務省北極圏開発調査団」に参加した研究者からの報告のほか、北極海航路からアジアに向かう船舶の多くが通過する宗谷海峡に面した稚内市や、冬期間海氷に覆われる紋別市の担当者から、船舶修理や船員訓練の拠点として活用する可能性など、道内の港湾や地域の視点から、北極海航路との関わりに期待することが紹介されました。

道では、今後も本研究会を定期的で開催し、北極海航路の玄関口に位置する地理的優位性を有する道内での航路の活用に向けた取り組みが一層進むことを期待しています。



研究会の様子

●「第7回 みなとオアシス会議」を開催

(中部地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

1月30日(金)、愛知県蒲郡市のホテル竹島において、「第7回みなとオアシス会議」を開催しました。

「みなとオアシス会議」は、中部地域における“みなとオアシス制度”を積極的に展開するべく、地先に港を持つ関係の方々に当制度を理解していただくため、毎年、みなとオアシス認定地にて開催しています。第7回となる本会議には、愛知県、静岡県、三重県の港湾などの関係者約100名が集まりました。

会議は、稲葉蒲郡市長の挨拶で始まり、国土交通省港湾局産業港湾課の西村産業連携企画室長から『「みなとオアシス」の取り組みについて』と題して、全国のみなとオアシスの取り組みやみなとオアシスに求められる新たな役割についてご講演いただいたほか、中部管内の6つのみなとオアシスが各みなとオアシスの活動報告を行いました。

また、特別講演では蒲郡シティセールスプロジェクト「ガマゴリ・ら」の鈴木寿明プロジェクトリーダーから、『蒲郡シティセールスプロジェクトについて』と題して、ガマゴリうどんの開発について、ご講演いただきました。

会議終了後には、蒲郡シティセールスプロジェクトの皆様の協力により、「ガマゴリうどん」の試食会が開催され、参加者はご当地グルメに舌つづみを打っていました。



会議会場の様子



稲葉蒲郡市長による開催地挨拶



鈴木プロジェクトリーダー



西村室長の講演の様子



蒲郡シティセールスプロジェクトの皆様

●Google マップ のストリートビューで瀬戸内の魅力発信！

(瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会事務局)

瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会(通称:海ネット)^{※1}では、世界に誇れる瀬戸内海の魅力を広く発信するための取組を推進しております。

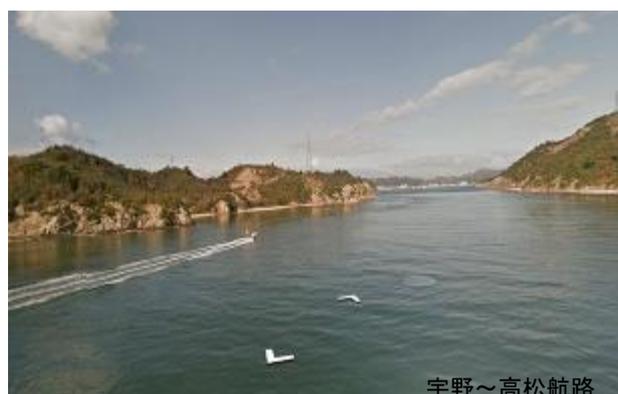
今般、こうした取組の一環として、Googleが提供するトレッカーパートナープログラム^{※2}を活用し、瀬戸内海汽船(株)及び四国フェリー(株)の全面的な協力により、風光明媚な瀬戸内海を往来する定期フェリーからの景観を撮影し、Googleマップのストリートビュー^{※3}でご覧いただけるようになりましたので、世界に誇れる瀬戸内の多島美を是非ご覧下さい。

○ストリートビューでご覧いただける航路

- ・ 広島～呉～松山航路：瀬戸内海汽船(株) (広島市)
- ・ 宇野～高松航路：四国フェリー(株) (高松市)



広島～呉～松山航路



宇野～高松航路

